

教育研究所だより

No.230 令和4年7月15日 【発行者】守山市教育研究所 所長 協阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html



第2回守山市初任者研修を実施しました



令和4年6月14日(火)、守山市生涯学習・教育支援センター(エルセンター)で、「第2回守山市初任者研修」を行いました。

午前の研修では、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」について、滋賀県総合教育センター 菅原 薫 研修指導主事からご講義をいただきました。

「子どもたちに何を学ばせたいのか」、「子どもたちにどのような力をつけさせたいのか」というゴールを教師がしっかり意識して授業を行うことの大切さや、子どもに目的意識をもたせることが、「やってみたい」「できるようになりたい」という主体的な学びにつながるということなど、授業実践のあり方について学びました。

午後の研修の前半は、守山市ほたるの森資料館 古川 道夫 館長から

守山のホタルの歴史やゲンジボタルの増殖研究における成果と課題、ゲンジボタルの自生をめざした取組などについてのお話をいただきました。

また、午後の研修の後半

は、守山市環境生活部環境政策課 伴 康宏 課長から、赤野井湾の再生に向けた取組、もりやまエコパーク交流拠点施設における環境学習の取組などについてお話をいただきました。

お二人のご講義をお聞きし、守山市の将来を担う子どもたちの環境意識の醸成を図るためにも、守山市の恵まれた自然環境を活かした環境学習を積極的に取り入れていきたいという思いをもつことができました。



第2回守山市初任者研修

①開会行事

挨拶・日程説明

②講義・演習

「主体的・対話的で

深い学びの視点からの授業づくり」

講師 滋賀県総合教育センター

菅原 薫 研修指導主事

③講義

「守山市ほたるの森資料館の取組について」

講師 守山市ほたるの森資料館

古川 道夫 館長

④講義

「守山市の環境学習・環境活動について」

講師 守山市環境生活部環境政策課

伴 康宏 課長

⑤閉会行事

受講者の感想(一部抜粋)

- ・研修をとおして、普段の授業でどのような部分を改善していくか考えることができたため、明日から実践していきたい。
- ・地域とのつながりを子どもたちに感じさせるためにも、まず私が、守山について知ろうと思った。

幼児教育研修講座Ⅰを実施しました



令和4年7月5日（火）、守山市生涯学習・教育支援センター（エルセンター）で、「幼児教育研修講座Ⅰ」を行いました。玉津こども園の寺田 梢 主任保育教諭、河西幼稚園の西 翔平教諭を講師に迎え、実践を通して学びました。風船で作ったボールやプールのスティックを使った遊びを通して、子どもたちに、相手を見て動いたり、判断したりする力をつけること、また、遊び方を相談する活動を取り入れることで、友だちとの関わりを学ぶ力をつけることなど、指導者の工夫が、子どもたちにとって大切な力を身につけることにつながることを学びました。



受講者の感想（一部抜粋）

- ・自分が実際に体験することで、どこの部分が楽しいのか、どこが少し難しいのかなど色々なことが分かりました。
- ・身の回りにあるもので、こんなにたくさんの遊び方ができると知って驚きました。工夫一つで楽しく体作りができることを知りました。
- ・「木の中のリス」（ゲーム）は子どもたちとしたら絶対に盛り上がるだろうと思いました。



第4回 中学生生徒会サミットを開催しました



令和4年6月4日（土）、守山市立図書館に市内6中学校の生徒代表者が一堂に会し、第4回生徒会サミットを開催しました。

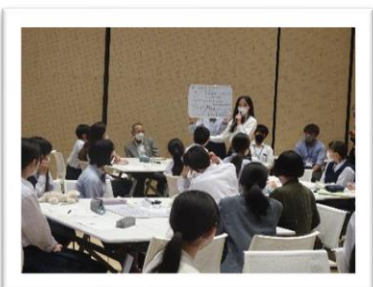
今回のサミットは、まず各校から日常の活動報告とともに、前年度から取り組んでいる「スマホに関する取組」の活動報告を行いました。各校からの報告を受け、スマホに関する効果的な取組はどのようなものか、どこに課題があるのかな



どを整理し、今後の活動方針を討議しました。

また、今回のサミットには、青少年育成市民会議の皆さんや守山市 PTA 連絡協議会の皆さんにもグループ討議に参加いただき、大人の目線や保護者の目線からの意見も出され、和気あいあいとした雰囲気の中、活発な議論が行われました。

なお、サミットの後半からは市長や教育長にも参観いただき、閉会行事では激励の言葉もいただきました。子どもたちにとって、これからの活動意欲を高める、たいへん充実した時間となりました。



<今後の活動方針について>

- 「スマホに関する取組」をより広めていくために、動画を作成する。
- 動画については「with スマホ時代」「スマホと最高の関係を」のように、「禁止」という視点ではなく「スマホと共生」「スマホをうまく利用していく」という視点で作成する。
- 次回開催は8月9日（火）もりやまエコパーク 交流拠点施設にて予定しています。



第1回研究協力員会を実施しました



教育に関する調査研究

★テーマ **子どもが話し合う、子どもが動き出す、とっておきの学級活動**
—クラスづくりは学級会から—

- ・学級活動をシステム化し、子どもが自ら課題を見つけ、主体的に話し合い、実践する力の育成をめざし、取り組みます。また、市内で共通理解して実践するために、話し合い活動リーフレットを作成します。

(敬称略)

指導講師	学校教育課「特別活動」 教育推進員	小川 宏
研究協力員	守山小学校	井上 理奈
//	吉身小学校	谷口 翔
//	速野小学校	宇野 利哉
担当	守山市教育研究所	折木 公美



指導力向上に関する研究1

★テーマ **より多くの子どもが主体的に学ぶ授業づくりの創造をめざして**
—守山式授業ベーシックステップ「めたふ」の実践—

- ・より多くの子どもたちが主体的に学ぶため、守山式授業ベーシックステップ「めたふ」（めあて、探究・追究、振り返り）を大切にした指導の工夫を図るとともに、その実践事例をまとめた「授業づくりハンドブック」を作成します。

(敬称略)

指導講師	滋賀短期大学 教授	久米 央也
研究協力員	守山小学校	小西 敦
//	河西小学校	堀 道雄
//	速野小学校	金田 泰秀
担当	守山市教育研究所	中道 裕恵



指導力向上に関する研究2

★テーマ **問題解決・探究における情報を活用する力（集める力・まとめる力・伝える力）の育成を意識した中学校社会科の授業のあり方**
—ICTを効果的に活用した考察・構想を説明、議論する実践を通して—

- ・中学校社会科の授業において、学びのツールとしてICTを効果的に活用し、「集める力」「まとめる力」「伝える力」などの問題解決・探究における情報を活用する力の育成を意識した授業実践のあり方を探ります。

(敬称略)

指導講師	滋賀大学大学院 教授	岸本 実
研究協力員	守山南中学校	乾 麻里子
//	守山中学校	徳田 円香
//	守山北中学校	木村 大佑
//	明富中学校	奥谷 佑晃
担当	守山市教育研究所	折木 公美





子どものポジティブな発言を聞くと大人も嬉しくなり共感的に理解しやすいですが、ネガティブな発言については否定的・指導的になってしまうことはないでしょうか。教育相談において、子どもたちが発するネガティブな言葉の裏には実は本当の思いが隠れていることがよくあります。今回は子どものネガティブな言葉とその理解についてのお話を紹介したいと思います。

ネガティブ語に出会ったときは共感的理解を

ネガティブなときもポジティブなときも、またそのどちらでもないときも、人間の行動と感情の奥には、「他者と共感したい」「他者に共感されたい」という欲求があると思います。ネガティブもポジティブも、まずは自分の感情に気づき、受け止めること、そして、共感的理解を示すことです。

～ネガティブ語は読み替えて～ ネガティブ語は、以下のように読み替えてみるのはいかがでしょうか。

「えー」→「見て」「私たちの気持ちを汲み取って」

予定外の出来事があったときに、とりあえず発せられるお馴染みの「えー」について、[...]感情的にならず、何度か頷きながら、落ち着くまで待ちます。

「話したくありません」→「今は言いたくないけれど、後で聞いてほしい」

無理に聞こうとせず、その場では、「話したくなったら伝えてね」と一言で離れることにしています。見守りながら、話せそうになったら、再度、聞いてみることもありますし、「実は、あのとき、話そうとしていることが自分でもよくわからなかったんです」と、整理がつかない気持ちを自分から話してくれることもあります。

→子どもたちの発するネガティブな言葉を、単なるわがままなのか、つぶさな思いなのかを見極め、どのように受け止め、どのような言葉で伝えていくのか[...]。 ※[...]は中略を表しています。

(2019年11月号 月刊学校教育相談 ネガティブ語に出会ったときには共感的理解を 八長 康晴 より一部抜粋)

夏期講座の講師先生紹介 「いのちの教育」の第一人者

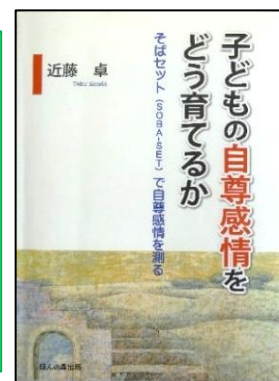
特別支援・教育相談研修から

「自尊感情をどう育み育てるか」

日本ウエルネススポーツ大学 教授 近藤 卓 先生

近藤先生は、今年5月に放送された、NHK スペシャル「君の声が聴きたい」では、パネラーとして出演されていました。そんな先生の著書、『子どもの自尊感情をどう育てるか—そばセット(SOBA-SET)で自尊感情を測る』を少し紹介します。

自尊感情は2種類からなるとしています。一つは、うまくいったりほめられたりすると高まるが、失敗したり叱られたりすると途端にしぼんでしまう「社会的自尊感情」、もう一つは、成功や優越とは無関係で、あるがままの自分自身を受け入れ、自分をかけがえのない存在として、丸ごとそのままに認める「基本的自尊感情」です。この感情こそが、自尊感情の基礎を支える大切な感情であると述べています。そして、この基本的自尊感情は共有体験(体験の共有と感情の共有)によって、あたかも、薄く溶いた糊をしみこませた和紙を、1枚ずつ積み重ねていくように少しずつ厚みをまましていくと述べています。



子どもたちの自尊感情をどう育み育てるのか、共に学んでみませんか。その他にも、今年の研修講座では、滋賀県SSW SV上村文子先生の子どもの理解と家族支援の講座や、優れた学級経営の具体的実践講座、また、生徒指導の課題といじめ対応の講座など、先生方の教師力を高める講座を開設しています。夏期研修講座への多くの先生方のご参加をお待ちしています。